

神奈川県立こども医療センターオレンジクラブ



ボランティアニュース

256号 2025年 6月

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦典

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>



「オレンジクラブ 50周年記念 新オレンジクラブ誕生物語 その2」

オレンジクラブ代表 三木美雪

2000年に入り、オレンジクラブはこども医療センターから永年の功績が認められ、こども医療センター設立30周年記念式典で表彰を受けました。この頃から、オレンジクラブは各所から注目されるようになり、神奈川県広報部や神奈川テレビなどの取材を受け、神奈川県地域社会事業賞、横浜市長賞、キヨニス社会公益賞などを受賞しました。また、2000年代は小児医療の分野でも、医療技術がより進歩高度化し、治る・救う医療へと発展していきます。その結果、子どもたちや家族を支えるためには、皆で心を寄せ合い、社会が一緒に考え癒す医療なくしては高度医療が成り立たなくなっていました。その一端を担うためにもオレンジクラブのボランティアの役割、必要性がより重要になってきました。



① 2002年こども医療センターとオレンジクラブの関係強化に向けて！

2002年オレンジクラブは病棟、縫物、お話し会、肢体、重心、飾りつけ、生け花の活動をしていました。病院側からの依頼で、シーネ作り（患部を固定する添え木のことで、おこさんのサイズに合わせて計量し、包帯を巻いて作っていました。）、カルテ組、伝票のスタンプ押しなどをしていました。この当時は、まだ病院内でオレンジクラブボランティア活動はほんの一部の職員にしか知られていませんでした。当時の後藤彰子副所長は、病院とオレンジクラブが共に協力する必要性を感じていました。アメリカのボストン小児病院の海外視察をされ、こどもの目線で作られた様々な機能、病院の装飾、常時600人のボランティア登録などに衝撃を受け、帰国後オレンジクラブと協力し、「ホスピタリティある病院」や「潤いや温かみのある病院」の実現に向けて誰よりもオレンジクラブの活動を推進されていきます。

まずは活動資金集めのためのバザーについて、宮内総務局長と田島香代子元総看護部長に相談し、2002年12月9日に、記念すべき第1回バザーをオレンジクラブと協力して旧講堂で開催しました。売り上げも30万円程あり大盛況でした。宮内氏は、今でもオレンジクラブに季節の手ぬぐいアートをたくさんご寄付下さり、院内が華やかです。田島氏はオレンジクラブの会員になられ、15年間オレンジクラブバザー実行委員長を務められました。



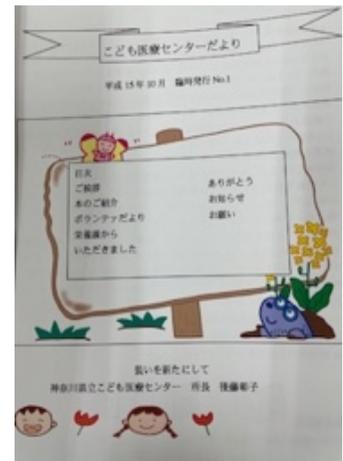
初期のバザー



手作りでの田島氏（右端）

② 2003年 こども医療センターだより発行

2003年、後藤彰子先生が所長に就任され、オレンジクラブボランティアの必要性について病院職員に関心を持ってもらうため、毎月こども医療センターだよりを発行されました。しかしながら医師、看護師、病院職員の協力を得るまでには、かなりのご苦労と時間を要したと伺っています。後藤彰子先生は、ボランティアの先進病院の聖路加国際病院、淀川キリスト教病院の実態を見聞き勉強され、ボランティア活動を成功させるには、ボランティアコーディネーターの存在が必要であることを知りました。こども医療センターにも是非ボランティアコーディネーターを病院専任職員として配置したいと病院側に働きかけました。後藤彰子先生の働きかけから2年後の2005年4月、待望のボランティアコーディネーターが着任することになります。



2003年10月
こども医療センターだより

③ 2003年 病院、外来ボランティア募集開始

2003年、病院がボランティアシステム検討会議を立ち上げ、新しいボランティアの導入受入を行いました。外来ボランティアの募集や、グランドピアノの寄贈とともに音楽グループ「ランパス」を受け入れました。



外来ボランティアの様子

④ 2004年 オレンジクラブ解散・新オレンジクラブ発足

2004年4月石森真基子元総務局長が着任され、4月15日にオレンジクラブの解散式と同時に新オレンジクラブが発足されました。当時ボランティアコーディネーターは存在せず、石森総務局長がボランティアの統括責任者でした。旧オレンジクラブの解散の背景には、病院が募集した外来ボランティア活動が始まり、「活動も広がっていたのに、ボランティアの出入りの調整、相談、会費の集金、会の開催、オレンジクラブとしてどれも大変で、ボランティアにかかわる業務を病院にお願いしたい。」との理由からでした。また、総務課の職員全体にもボランティア活動への理解が十分でなかったもので、活動中にボランティアが困ったこと、活動の細かい話や相談事が総務局長室に持ちこまれていました。



2004年4月
ボランティアニュース

新オレンジクラブが発足され、これまで活動していた病棟、縫い物、お話し会、肢体、重心、飾りつけ、生け花の7つのグループと、病

院が募集した外来ボランティア、ランパスによる音楽活動、作業の3つのボランティアグループが統合されました。新オレンジクラブが誕生して、2004年5月には、ボランティア週間とボランティア交流会が開催されました。当時の後藤彰子所長、石森真基子総務局長をはじめ、幹部職員をあげてボランティア活動をこども医療センターの中で盛り立てようとする機運が高まってきました。



屋上の除草活動～まだ荒地

後藤先生ありがとうの会が開催されました。



ボランティア活動推進にご尽力くださいましたいた後藤彰子所長が3月に退職されることになり、ありがとうの会を開催しました。ぽぽんたの皆様からストーリーテリングなどのプレゼントもありました。後藤先生がこれからもご活躍され、さらに私達ボランティアにも引き続きご指導くださるようお願いしております。

2006年4月号のボランティアニュースより

⑤ 2005年 待望のボランティアコーディネーター着任！

オレンジクラブが発足して30年の節目の年2005年、総務課に初代梶山祥子ボランティアコーディネーターが着任しました。私たちが病院内でボランティア活動が円滑に行うことができるのは、病院との橋渡しをして下さるボランティアコーディネーターがいて下さるおかげです。困りごと、新しく挑戦してみたいイベント、何でも相談できます。新規ボランティアの受け入れ、研修会、仕事は多岐にわたります。オレンジクラブのボランティアグループは、ボランティアコーディネーター着任後増加しています。現在は、28のグループと350名のボランティア会員が登録されています。音楽イベント、クリスマスのサンタ訪問、外部からのイベントも積極的に受け入れています。現在の加藤悦興コーディネーターは2代目です。全国組織のこども病院ボランボラコの会（ボランティアコーディネーターとボランティアの会）も発足され、全国に配置されている小児病院ボランティアコーディネーターによる積極的な意見交換も行われています。オレンジクラブは、センターの職員の皆様のご理解と暖かいご支援のおかげで、大変恵まれた環境で、安心して日々ボランティア活動ができています。ボランティアと病院がお互いに協力し、おこさんの笑顔と元気のために、これからもボランティア活動に邁進してまいります。



梶山祥子 初代コーディネーター

6月の予定

月	火	水	木	金
2	3	4	5	6
おもちゃ 10時～11時クリーン 14時～15時4西		SHJ 15 時クリ ーン		
9	10	11	12	13
おもちゃの病院	アートワークショップ 通路	SHJ 重心 ぼぼんた 4東・肢体・5南		あっちこっち 4東
16	17	18	19	20
フットサル5西 体育館（通院者対 象）	H クラウン 外来・こころ 盲導犬10時30分重心	SHJ 5西		シャボン玉 10時 HCU2 14時 こころ
23	24	25	26	27
	H クラウン外来・5南 フラダンス 重心・総合待合	ぼぼんた 4南・4西・HC U2	SOC:全セクシ ョン対象	
30				

- ・外来活動 月～金曜日 8：30～16：00
- ・患者図書 月～金曜日 10：00～14：00
- ・重心作業 毎週火・金曜日 10：00～12：00
- ・手芸 第3水曜日
- ・縫製活動 第2・第3水曜日 10：00～12：00
- ・手作り 第2水曜日 午後
- ・園芸活動 第2・第4火曜日（他火曜日適宜）
- ・つるし雛 毎月第1月曜日
- ・フラワーアレンジメント 毎月1回（4か所）
- ・作業 第4木曜日
- ・きょうだい預かり 毎週月火水金曜日 11：00～17：00
- ・高野さんとピアノ 毎週火曜日 10：45～11：15頃
- ・ピアサポート 毎週火水木金曜日 10:00～14:00



短冊にお願いごとを書いているご家族の様子

- 6月17日（火） ボランティア運営会議 講堂 14時～14時50分
オレンジクラブ50周年イベント 14時50分～15時30分
- 6月30日（月） ボランティア研修会 講堂 13時～16時